

## 投稿

## 天文教育普及の国際会議に参加しよう！

矢治健太郎(国立天文台)

## 1. CAP2018が日本にやってくる

Communicating Astronomy with the Public2018 (CAP2018) が、2018年3月24日から28日に福岡市科学館で開催されることになった。CAP2018は、天文コミュニケーションに関する国際会議で、日本での開催を機に「世界天文コミュニケーション会議2018」と呼称されることになった。CAPについては、これまでも筆者が天文教育誌上で何度か紹介している[1][2][3]。しかし、このような国際会議の事前情報を得る機会はなかなかないのではないか。わたし自身、CAPの存在を初めて知ったのは、国立天文台で貼られていたポスターであった。特に来年度(2017年度)は天文教育や天文コミュニケーションに関する会議がいくつか予定されており、筆者が把握しているものを紹介する。

## 2. 2017年度の天文教育普及関係の国際会議

ここでは概要の紹介にとどめるので、興味があるものは各自で詳細を調べてほしい。特に参加費は、会議によっては、バンケットやエクスクーションの費用が含まれていたり、いなかったりする。また、すでに発表申込が締め切られていたり、参加申し込みが迫っていたりするものもあるがご容赦を。

## 2.1 The International Symposium on Education in Astronomy and Astrobiology (ISE2A)

会議名：天文教育及びアストロバイオロジー教育に関する国際会議

日程：2017年7月3日(月) - 7日(金)

場所：ユトレヒト(オランダ)

発表要旨〆切：3月15日(水)

登録〆切：6月15日(木)

早期割引は5月1日(月)まで

概要：天文教育だけでなく、アストロバイオロジー教育も対象なのが興味深い。欧州宇宙機関の施設(ESA/ESATC)やアムステルダム科学館の見学ツアーも予定されている。

参加費：一般300ユーロ、学生は200ユーロ

Web：<http://ise2a.uu.nl>

## 2.2 2017 Asia-Pacific Regional IAU Meeting (APRIM2017)

会議名：国際天文学連合・アジア太平洋地域会議

日程：2017年7月3日(月) - 7日(金)

場所：台北(台湾)

発表要旨〆切：3月1日(水)(すでに〆切)

登録〆切：6月16日(金)

早期割引4月30日(日)まで

概要：国際天文学連合の地域会議の一つ。3年に一度行われている。過去の例から、教育・アウトリーチのセッションが2日ほど開催。ただし、前述のISE2Aの会議と同日程。

参加費：400ドル(早期割引350ドル)

Web：<http://www.aprim2017.tw/index.html>

## 2.3 Public Awareness of Research Infrastructures II: Communicating the importance of science to society

会議名：研究基盤に対する一般市民の意識に関する研究会

日程：2017年5月29日(月) - 30日(火)

場所：ミュンヘン・ガーヒンク(ドイツ)

発表要旨〆切：2月10日(金)(すでに〆切)

登録〆切：5月2日（火）

概要：サイエンスコミュニケーション系の研究会だが、ドイツ・ミュンヘンのヨーロッパ南天天文台（ESO）の本拠地で行われる。

参加費：200ユーロ

Web：<https://webapps.frm2.tum.de/indico/event/43/overview>

#### 2.4 Global Hands-On Universe Conference 2017 and Galileo Teacher Training Program International Workshop (GHOU2017)

会議名：グローバル・ハンズオンユニバース 2017 & GTTP 国際ワークショップ

日程：2017年8月15日（火）－21日（月）

場所：ボーリング・グリーン市、ウェスタンケンタッキー大学（アメリカ合衆国）

発表要旨〆切：3月30日（木）

登録〆切：4月30日（日）

概要：いわゆる GHOU と呼ばれる毎年行われている天文教育の研究会。最近は GTTP（ガリレオ・ティーチャーズ・トレーニングプログラム）と合同で行なうことが多い。8月21日（月）の皆既日食に合わせており、会場近くに観測場所が用意されている。

参加費：200ドル、学校教員の場合50ドル

Web：  
<http://handsonuniverse.org/ghou2017/>

#### 2.5 Astronomy Museums, Visitor Centres & Public Observatories Symposium

会議名：天文系博物館、ビジターセンター及び公開天文台に関するシンポジウム

日程：2017年9月27日（水）－29日（金）

場所：ライデン大学（オランダ）

発表要旨〆切：未定

登録〆切：未定

概要：2015年9月に実施したミュージアムシンポジウムの第2回目。対象者は大学附属か研究機関のミュージアム職員。ファーストサーキュラーが3月10日頃に発行される予定。予定されている主なトピックは以下。

- ・天文学の学習空間における実践
- ・天文系博物館におけるサイエンスコミュニケーション
- ・天文系博物館・ビジターセンター・公開天文台の運営
- ・一般向けプログラムの開発と実践
- ・プロ・アマの天文学者の役割
- ・国際協力、ほか

参加費：未定

問い合わせ先：縣秀彦（国立天文台天文情報センター）[h.agata@nao.ac.jp](mailto:h.agata@nao.ac.jp)

#### 2.6 Communicating Astronomy with the Public 2018 (CAP2018)

会議名：世界天文コミュニケーション会議 2018 in 福岡

日程：2018年3月24日（土）－28日（水）

場所：福岡市科学館（日本）

参加登録・発表要旨提出開始：5月1日（月）

発表要旨〆切：10月15日（日）

登録〆切：12月15日（金）（早期割引）

概要：IAUの公式会議の一つ。国際的に活躍する天文学者、科学記者、科学ライター、各研究所・大学の広報・アウトリーチ担当者、科学館学芸員、アマチュア天文家、教育関係者等が300名規模で集う国際会議。広く天文・宇宙科学分野の科学コミュニケーションに関して議論する。大会テーマは、  
"Communicating Astronomy in Today's World: Purpose & Methods"  
（今日の世界で天文学を伝える目的と方法）

参加費：一般 3 万円（全日参加）、学生 1 万 5 千円（全日参加）。少ない日数でも参加しやすいように 1 日券、2 日券も用意する予定。

Web : <https://www.communicatingastronomy.org/cap2018/>

## 2.7 情報を得るために

このような会議の情報を得る方法の一つとして、IAU のアウトリーチニュースレターがある[4]。アウトリーチニュースレターには天文学分野の教育普及に関する会議の情報が掲載されている。また、Facebook や Twitter などのソーシャルメディアで、IAU や GTPP のアカウントをフォローしておく、情報を把握しやすい。また、会議によっては、ウェブ登録することで、会議情報をメールで発信してくれるところもある。

## 3. 旅費はどうする。

いざ、「国際会議に行こう」という段になって、「何を発表しよう」とか「英語はどうしよう」とか、出張で行けない場合「休みをどう取ろう」といろいろあると思う。なんと言っても、「さて、旅費をどうしよう。」と旅費の工面も悩みどころ。幸いにも、職場から出る場合もあるし、最悪、自費で参加という方もいるだろう。しかし、世の中には、このような国際会議の旅費を支援する補助金や基金がいろいろ用意されている。そのいくつかを紹介する。細かい応募条件や採択額については省くので、各自で調べてほしい。

### 3.1 国際会議での旅費援助制度

国際会議の主催者側で、旅費を援助する場合もある。本稿でも紹介した CAP2018 でも一部旅費援助が行われる予定である。ただし、遠隔地や発展途上国の参加者に優先される場合がある。また、口頭発表者が優先されるこ

とも多い。ただ、参加するだけでは援助は受けにくいので、留意してほしい。

### 3.2 日本学術研究会科学研究費補助金奨励研究

いわゆる科研費。特に、奨励研究は、「教育・研究機関の教職員等であって、他の科学研究費助成事業の応募資格を持たない者が一人で行う教育的・社会的意義を有する研究を助成し、奨励することを目的とする。」と定められており、小中高の学校教員、科学館・公開天文台の職員なども応募可能。最高 100 万円まで応募できる。ただし、平成 29 年度の応募期間は 2016 年 12 月 1 日（木）～12 月 5 日（月）と、すでに終了している。次回以降の参考にしてほしい。

[http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/11\\_shourei/](http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/11_shourei/)

### 3.3 日本天文学会早川幸男基金（若手海外学術研究援助基金）

日本天文学会の若手天文学研究者（申請時に 35 歳以下）の海外学術研究援助を目的としている。毎年 4 回（3、6、9、12 月の 10 日がメ切）募集を行っている。筆者も、過去に公開天文台在職時に、天文教育普及の内容で、海外の国際会議で発表した折、早川基金に採択されている[5][6]。ただし、日本天文学会の正会員でなければならない。

<http://www.asj.or.jp/asj/hayakawafund/>

### 3.4 日本天文学会内地留学奨学金

日本天文学会の主として学校の教員、科学館・プラネタリウム・公共天文台などの社会教育施設の職員やアマチュア天文研究者の方々の研究活動・調査活動を支援する制度。学生の応募も可能。奨学金は旅費に使用できるが、支給額は採択者の人数で変わってくるので、それほど多くならない。応募メ切は例

年 8 月末。日本天文学会の会員でなければならぬ。

[http://www.asj.or.jp/asj/naichi\\_app.html](http://www.asj.or.jp/asj/naichi_app.html)

### 3.5 公益財団法人 天文学振興財団

国際研究集会参加や国際交流の助成、天文学の普及・啓発活動に対する助成を行っている。申込期限は、毎年 5 月末日、9 月末日、翌年 1 月末日の計 3 回。

<http://www.fpastron.jp>

### 3.6 公益財団法人 宇宙科学振興財団

35 歳以下の若手研究者、63 歳以上のシニア研究者（常勤者職についてない方）を対象に、国際学会出席の旅費支援を行っている。論文発表が原則。研究者向けなので、応募のしきいが高いかもしれない。募集〆切は 8 月 31 日と 2 月末日。

<http://www.spss.or.jp>

## 4. まとめ

「世界天文コミュニケーション会議 2018」(CAP2018) が、2018 年 3 月に福岡市科学館で開催される。この他にも来年度は、海外で天文教育普及関係の国際会議が予定されており、そのいくつかを紹介した。関心がある

ものは、日頃から関連情報を積極的に集めておくことを推奨する。旅費も、さまざまな助成や基金があるので、活用することができる。

## 文 献

- [1] 矢治健太郎 (2012) 『Communicating Astronomy with the Public 2011 (CAP2011) 参加報告』, 天文教育, Vol. 24 No. 4, 64-65
- [2] 矢治健太郎 (2015) 『Communicating Astronomy with the Public 2016 に参加しよう』, 天文教育, Vol. 27 No. 3, 7-12
- [3] 矢治健太郎 (2017) 『Communicating Astronomy with the Public 2016 参加報告』, 天文教育, Vol. 29 No. 1, 93-98
- [4] <https://www.iau.org/public/publications/newsletter/>
- [5] 矢治健太郎 (2002) 『日本天文学会早川幸男基金による渡航報告書』, 天文月報, 95, 196-197
- [6] 矢治健太郎 (2002) 『ようこう 10 周年国際会議』, 天文教育, Vol. 14 No. 2, 87-88

p

\* \* \* \* \*